

およそ 2,000 もの膨大なカット数の レイヤーを After Effects 上で合成



清水 康彦氏 (左)、齋藤 渉氏 (右)



日華『NO.1』
(c) 2008 Far Eastern Tribe Records, a division of UNIVERSAL MUSIC K.K.

使用製品

- Adobe After Effects CS3
- Adobe Photoshop CS3
- Adobe Illustrator CS3

清水 康彦 (しみず・やすひこ) 氏は、専門学校時代から CM 制作会社でインターンシップとして働きながら、Adobe Creative Suite 3 Production Premium を構成する Adobe Photoshop や Adobe Illustrator、Adobe After Effects などのツールを用いてグラフィックデザイン、モーショングラフィックスを習得した。

その後、プロダクション OMB に所属し、さらに Adobe 製品でアニメーションやモーショングラフィックスの制作を手掛け、After Effects で完成させたミュージック・ビデオ『Ability』(アーティスト: Hi-5) で監督デビューを果たす。2007 年春にフリーランスとなり、現在、ミュージック・ビデオを中心に月 3~4 本の制作ベースで稼働中。主な作品には、アーティスト DABO の『SHALL WE ROCK? feat.EQUAL,TARO SOUL, 竹内朋康』、DOPING PANDA 『Miracle』、SPECIAL OTHERS 『AIMS』、sugiurumn 『electlify my love』、ストレイテナー 『BERSERKER TUNE』、斉藤和義 『~愛の続きはボンジュール!~』、嵐 『きつと大丈夫』、日華『NO.1』などがある。

プロダクション「祭」に所属する齋藤 渉(さいとう・わたる)氏は、フリーディレクターである清水氏の日華『NO.1』の VFX を担当した。特に Adobe® Photoshop® や Adobe® Illustrator® によるグラフィック作成、そして Adobe® After Effects® による実写とグラフィックスの合成を得意としており、実際に自らこれらソフトを使用して実績を積んだ清水氏による信頼は厚い。両氏がコラボを組んだ最近の作品の 1 つ、アーティスト日華の『NO.1』においては、P2HD カメラによるグリーンバック撮影を行っており、作品全編にわたり多数の日華自身が登場するという合成加工が施されている。コンポジションのレイヤー数もおよそ 2,000 と撮影のカット数も膨大のようだが、撮影は半日で終わったという。



DOPING PANDA 『nothin』
(C) 2008 Sony Music Records Inc.



Monobright 『未完成ライオット』
(C) DefSTAR RECORDS, 2007

AG-DVX100よりPanasonicのビデオカメラを愛用しているという清水氏は、現在でもPanasonicのP2HDカムコーダーを頻繁に使用。この作品『NO.1』の撮影にも利用されている。P2ネイティブ対応した最新バージョンのAfter Effectsの特徴を最大限に生かし、撮影現場で、粗編やAfter Effectsによる合成まで行っていると話す。「ミュージック・ビデオは現場での雰囲気や進行など、現場重視の要素が多いのですが、それに適合するのがP2カメラのクオリティーと利便性だと思っています。カットごとに分けて記録してくれるという大変便利な点もあり、P2カメラは発売当初より使用しています。そしてそれにネイティブ対応しているAfter Effectsとの組み合わせは現場においても大変な効率性をもたらします」(清水氏)。

また現場に持ち込むパソコンはフルスペックのMacBook Proで、Production PremiumのMac版を使用している。MacBook Pro上で稼働するProduction Premiumは、現場においても順調であるという。

清水氏は、After Effectsをバージョン4の時代より、斎藤氏はバージョン6.5の時代よりメインツールとして使用している。

「オンエアされるミュージック・ビデオでもあるのだが、個人的には放送レベルでの色味に適合させるより、自分の好きな色で制作に携わりたい」と話す清水氏にとって、PhotoshopやIllustratorで合成素材作りからはじめられるProduction Premiumは必要不可欠なツールだ。

After Effects CS3に対して清水氏と斎藤氏は「画質が非常に高まった」と賞賛しており、「画像を拡大してもエッジがとてなめらかです。反対に縮小しても、ピクセルが詰まったような変なシャープさがありません。ピクセル演算が非常にしっかりしていると感じます。最終的に、だいたいデジベに落としてSDとするミュージック・ビデオ制作でもHDで撮影する理由は、大きく撮っておけば小さい必要な部分だけを取り出すことは可能だからです。



Hi-5『ability』 動画素材をフレームごとに Photoshop 上でレタッチし、独特な映像を表現した。
(C) EMI Music Japan, 2003.

ですから、拡大・縮小を行っても、画質が崩れない CS3 の処理能力は大変重要なポイントとなります」「さらにトラッキングやスタビライザーなどの機能も精密さがアップしており、同じピクセル分析能力もかなり向上していると感じます」と清水氏は話している。

清水氏がよく使用するという After Effects の機能は、3D レイヤー、レイヤーモード、そして標準装備されているクロマキー合成用プラグイン Keylight など。斎藤氏は、レイヤーモードをよく使用するという。「グラフィックスを実写と合成する際、ディテールにこだわってなじませたい時の重要な機能です」（斎藤氏）

「After Effects CS3 には、パペットツールなどと、興味深い新機能が追加されています。例えばその機能を最大限に利用したコンテを構成するなど、機能を前提に企画をたてていくことも今後は面白いのではないかと思います」と清水氏は意気込みを話す。

お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー (AAD: Adobe Advanced Dealer) でお買い求めください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビシステムズホームページ (www.adobe.com/jp) で入手して下さい。製品の購入に関する詳細はカスタマーサービス (tel.0570-067337【ナビダイヤル】) へお問い合わせください。Adobe Open HD 認証編集システムの詳細は、Adobe Pro Video Reseller (www.adobe.com/jp/motion/pvr) へお問い合わせください。

アドビシステムズ株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー・www.adobe.com/jp
Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA・www.adobe.com

カスタマーサービス (製品に関するお問い合わせ) 0570-067337 (ナビダイヤル)

アドビストア (注文専用) フリーダイヤル 0120-61-3884

受付時間 9:30~17:30 土、日、祝日および弊社指定休日を除く

※アドビストアはアドビのオンラインストアです。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Premiere Pro および After Effects、Encore、Photoshop、Illustrator は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。
© 2008 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.

